

組織内における「人脈の共有・見える化」に係る実証及び調査報告

アジェンダ

- はじめに
 - 実証事業の目的
 - 実証事業概要
- 利用促進詳細
 - 全体スケジュール
 - 過去に取得した名刺のスキャン支援
 - ユーザ向け機能説明会
 - Sansan利用促進強化月間の取り組み
- 利用促進による効果 (職員向けアンケート結果)
- 利用促進による効果(利用率サマリ)
- ユーザインタビューからわかる行政機関としての活用例
- 「人脈の共有・見える化」が行政機関にもたらす価値
- 参考:継続利用することで期待される効果
- 考察

はじめに

実証事業の目的

国内・海外において急速に産業構造が変化している中で、市場のプレイヤーが抱える課題に対応し、産業の「現場」に即した政策を立案・実行していくために、「現場」で抱える課題やニーズを把握することは不可欠な状況となっており、ツールの活用による「人脈の共有・見える化」によって<u>効率的に省内人脈を活用するための仕組みを構築することの重要性が高まっております。</u>

令和元年の実証事業では約100名の外部接点が多い職員による検証を実施しましたが、令和2年度は経済産業省本省職員4,000名に範囲を広げ、**蓄積される名刺が増加することにより** 人脈共有の価値が向上するか、政策連携に関するアウトプット等が向上するかを追加検証することも目的として実証事業を実施いたしました。

| 実証事業の目的(詳細)

名刺のデジタル化による生産性向上

- 名刺の整理や省内の人脈の確認に費やす時間の削減
- 他の職員が持つ名刺情報による企業情報やコンタクト履歴の確認

紙の名刺管理からの解放

- 保管場所の排除
- 情報管理コストの簡素化(連絡先の手入力や電子化など)
- 出張時の持ち歩き不要

一 人脈の可視化による情報共有の活性化

- 一局内・課内を横断した名刺情報の共有による、意見交換等の機会の増加
- 共有範囲を限定することが可能なため、効果的な情報共有が可能

一情報収集の効率化

- 登録した名刺の方の人事異動情報の通知
- 登録した名刺の方に他の人がコンタクトした情報の通知
- 登録した名刺の会社に関するニュース受信

実証事業概要

- 対象者
 - 経済産業省総合庁舎の職員 3,700名(3/8時点)
 - > 内訳は右記の通り
- 対象期間
 - 2020/06/01 2021/03/31
- 利用サービス
 - 名刺管理サービスSansanに関する下記
 - > ライセンス数:4,000ID
 - > スキャナ/通信機器:各50台
 - > 名刺取り込み枠:月間4万枚
 - > 専任担当による導入支援

局名	人数
本省	19人
大臣官房	428人
調査統計G	194人
福島復興推進G	77人
経済産業政策局	166人
地域経済産業G	95人
通商政策局	233人
貿易経済協力局	319人
産業技術環境局	311人
製造産業局	339人
商務情報政策局	160人
産業保安G	135人
商務・サービスG	248人
電力・ガス取引監視等委員会	62人
資源エネルギー庁	458人
中小企業庁	396人
特許庁	7人
地方局	43人
経済産業研修所	10人

利用促進詳細

全体スケジュール

Sansan利用促進 強化月間実施

	2020年					202	21年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
打ち合わせ	・キックオフ ・体制構築 ・システム設計	・スケジュール策定 ・運用ルール策定 ・ユーザ登録 ・名刺取込準備	・セキュリティ ポリシー検討 ・利用状況確認	• 個	人情報保護法に関する	・利用 ・利用促 ・利用促	定例実施 犬況確認 進施策検討		
説明会	・管理者向け説明会 ・部門担当者向け 説明会		・ユーザ向け説明会 ×8回			・ユーザ向け説明会 ×22回 (局別で実施)			
名刺スキャン	• 機器設置					・局別名刺回収支援 ×3回	・名刺提出キット 配布キャンペーン × 2 回		
その他			・ISMAPに関する ディスカッション	・未使用コメール		・利用促進メ ・ポスタ	PR動画放映 ール配信×7回 マー掲示 Insanページ掲載 ・ユーザアンケート 実施	・ユーザアンケート 集計 ・ユーザイ 実)	

■ 過去に取得した名刺のスキャン支援①

本実証にあたっては、活用するための人脈をいかに多く蓄積できるかが最も重要な要素となるため、各ユーザが過去に交換した名刺を一括でスキャンするための支援を実施した。

- 名刺取り込みサービス(郵送/訪問)概要
 - 名刺提出用キットに名刺を封入し、郵送で弊社に提出、もしくは庁舎の一か所に集めていただき、スタッフが訪問する形でスキャン代行を実施。 詳細はこちら。
- 名刺取り込みサービスを活用するメリット
 - 取込にかかる時間を削減することが可能
 - > 1万枚をスキャンするのにかかる時間は約20時間。期間中に約35万枚の名刺を代行スキャンしたため、約700時間の削減につながった
 - 名刺取り込みサービスを利用することで、一人当たりの取込枚数が増える傾向
 - > 過去の実績から、取込サービスを利用すると自身で取り込んだ場合と比較し、1人あたり平均100人分スキャンされる名刺(人脈)が多いことがわかっている。
 - 取込ミスが無くなり、 バラツキのないデータベースをつくることが可能に
 - > 別のアカウントへの取込や日付指定ミスなど、個々で行うと取込ミスが発生しやすくなる

過去に取得した名刺のスキャン支援② - 各日の取込方法/取込枚数

- スキャン代行の様子

- 各ユーザの名刺が混ざらないように、それぞれキットを 分けて封入し各局主査へ提出。言語を指定することも可 能で、名刺に直接記入された名刺交換日もデータ化する ことができる。
- 1日に約2万枚の名刺を代行スキャンすることが可能





取込方法	取込日	取込枚数
郵送	2020/8/3	48270枚
郵送	2020/8/4	62786枚
郵送	2020/8/5	74134枚
郵送	2020/8/6	1197枚
郵送	2020/10/14	28316枚
訪問	2020/11/11	13339枚
訪問	2020/11/19	20338枚
訪問	2020/11/20	23266枚
訪問	2020/11/24	8489枚
訪問	2020/12/3	21419枚
訪問	2020/12/4	11692枚
訪問	2020/12/11	5522枚
訪問	2020/12/16	4105枚
訪問	2020/12/18	5029枚
訪問	2020/12/21	25084枚
訪問	2020/12/23	3220枚

■ ユーザ向け機能説明会

取込の支援を実施した後は、蓄積した人脈をどのように政策に活かすことができるのか、操作方法や活用例を紹介するためのユーザ向けの機能説明会を実施。

- 実施日

- 7月~9月にかけて全体説明会を8回、Sansan利用促進強化月間を実施した11月に局別説明会を22回実施

- 当日のアジェンダ

- スキャナの使い方
- ログイン/画面構成
- 一覧表示、修正、ダウンロード方法
- 検索
 - > 人物詳細(経歴)
 - > 会社詳細(TDB情報・ランキング・財務情報・組織ツリー)
- 人事異動・連絡先変更ニュース
- オンライン名刺の設定方法
- スマートフォンアプリ
 - 検索・人物詳細(各種アイコン)・名刺の撮影・フィード



Sansan利用促進強化月間①

- 強化月間実施の背景

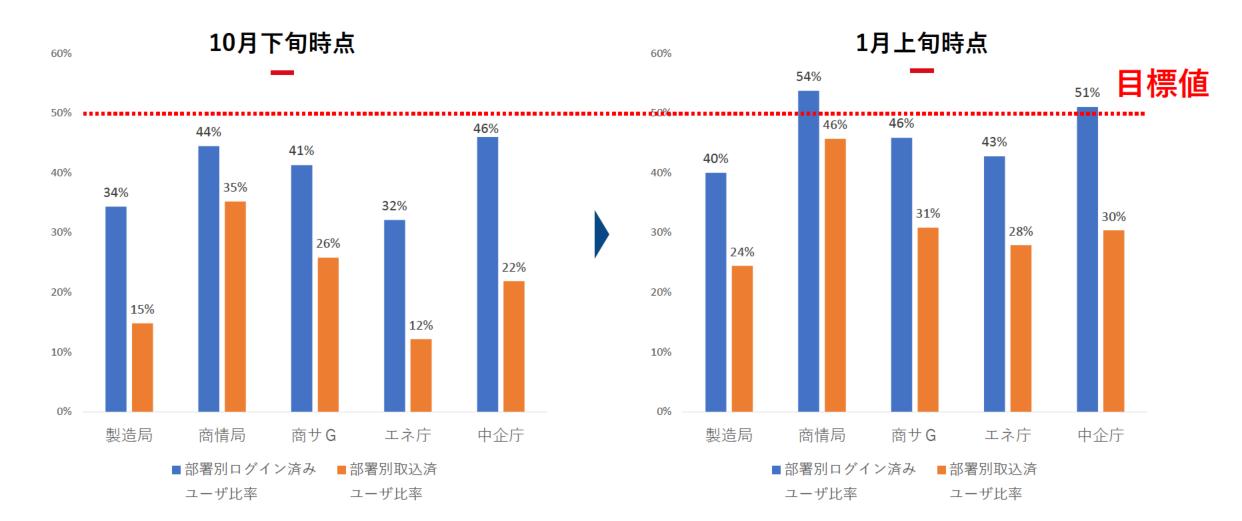
- リモートワークの影響で、10月末時点で当初のスケジュールよりも2か月程度利用率の進捗に遅延が発生。実証に足るだけの利用率の向上が必要となったため、11~12月の2か月間に渡り Sansan利用促進強化月間を実施した

- 実施内容

- 局別説明会追加開催(22回)
- ポスター作成/掲示
- PR動画制作/経済産業省庁舎にて放映
- 名刺取り込みサービス(訪問)の実施
- 名刺回収キットの配布キャンペーン(2回)@経済産業省庁舎食堂前
- 利用促進メール発信(7回)
- 利用実績報告定例

Sansan利用促進強化月間②

特に名刺交換の多い5部門において、ログインと取込の促進を実施。すべての部門で各値が上昇し、一定 の成果を上げることができた。



利用促進による効果 (職員向けアンケート結果)

アンケート概要

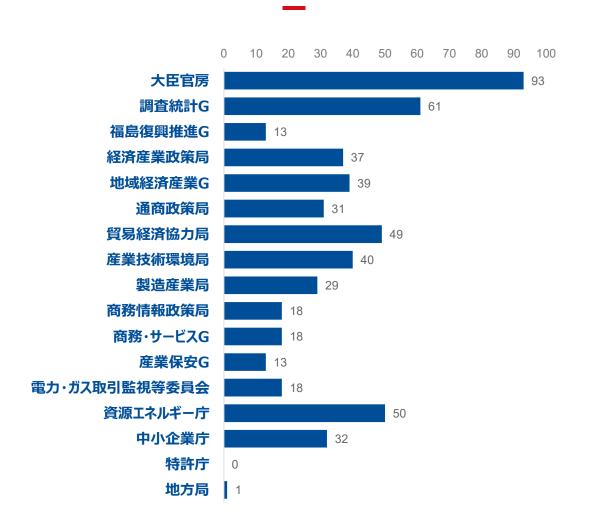
- 回答期間
 - 令和2年12月18日~25日
- 実施形式
 - Share Point (選択式及び記述式)
- 回答数
 - 452/3670名
- 設問
 - 右記の通り

- 1. あなたの所属部局を教えてください。
- 2. あなたの役職を教えてください。
- 3. 1年間にどのくらい名刺を交換していますか?
- 4. 現在、自分が取得した名刺をどのように管理していますか? (複数回答可)
- 5. Sansanの名刺管理サービスを利用しましたか?
- 6. なぜログインしなかったのですか? (複数回答可)
- 7. なぜ名刺を取り込まなかったのですか? (複数回答可)
- 8. どのような設定で取り込みましたか?
- 9. Sansanのどのような機能が便利と感じましたか? (複数回答可)
- 10. 他の職員が取り込んだ名刺を参照できる利点は何ですか? (複数回答可)
- 11. 今後、Sansanのような名刺共有サービスを利用したいと思いますか?
- 12. Sansanのような名刺共有サービスの利用について御意見があれば記載してください。

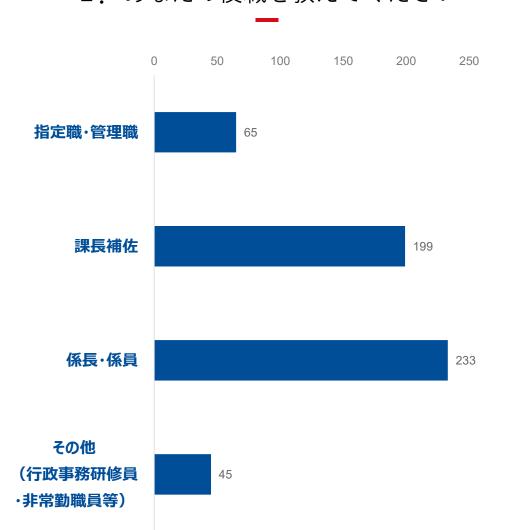
1. あなたの所属部局を教えてください/

2. あなたの役職を教えてください

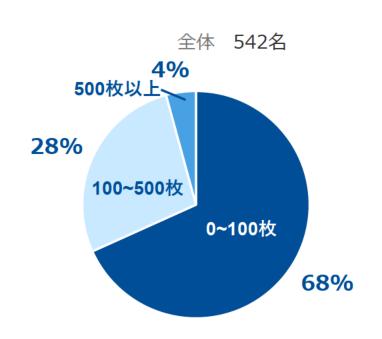
1. あなたの所属部局を教えてください



2. あなたの役職を教えてください

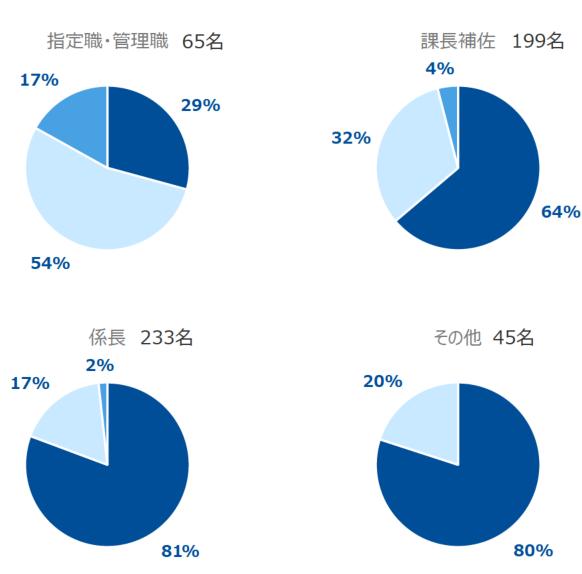


3. 1年間にどのくらい名刺を交換していますか?

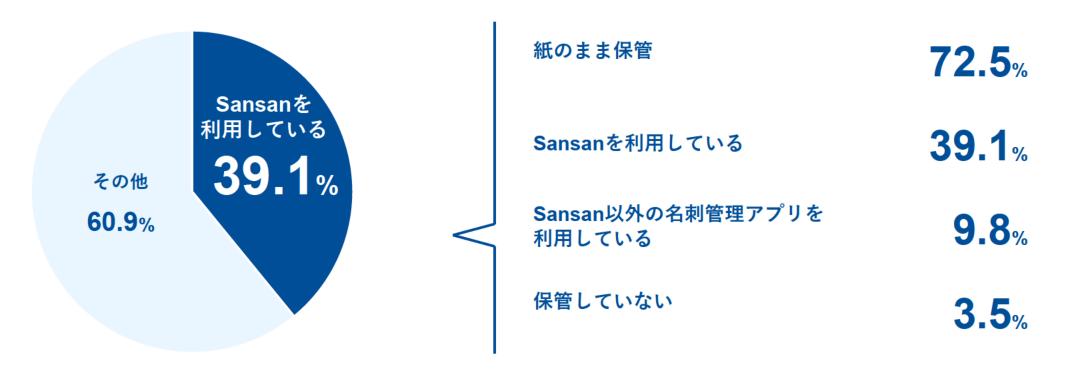


全体としては約7割の方が0~100枚と回答しているが、 指定職・管理職のみの内訳では54%のユーザが100~500 枚、17%のユーザが500枚以上年間で交換している状態 で、役職が上がれば上がるほど、名刺管理のニーズや導 入効果が高まることが推察される。

指定職・管理職>課長補佐>係長・係員>その他(行政事務研修員・非常勤職員等)の順に名刺の枚数は多かった。



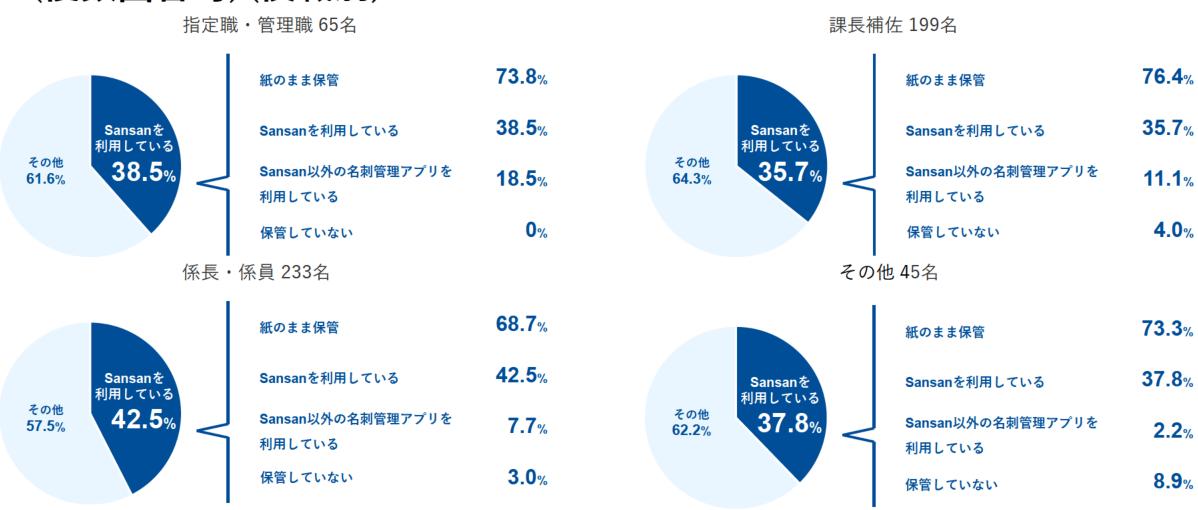
4. 現在、自分が取得した名刺をどのように管理していますか? (複数回答可)(全体:542名)



紙のまま保管しているユーザ393名のうち98名/25%はSansanを併用している状況だった。また、Sansan以外の名刺管理アプリを利用しているユーザ53名のうち22名/42%のユーザはSansanも併用している状況だった。

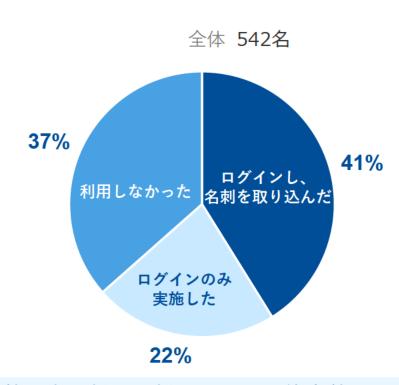
紙のまま保管しているのみの方は全体の約半数の281名で、サービスが継続利用できるかわからないため、ニーズはあるものの利用開始しなかった方が一定数いる状況だった。今後継続的に利用できる状況になれば、利用を開始するユーザは増えると考えられる。

4. 現在、自分が取得した名刺をどのように管理していますか? (複数回答可)(役職別)



最も人数の多い係長・係員において、Sansanを利用している割合が高い状況だった。また、指定職・管理職においては他の名刺管理アプリを利用している割合が高く、潜在的な名刺管理ニーズが高いことが分かった。

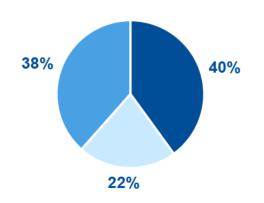
5. Sansanの名刺管理サービスを利用しましたか?(全体/役職別)

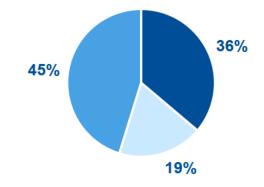


最も人数の多い係長・係員において約半数がSansanを利用している状況だった。係長・係員>指定職・管理職>課長補佐>その他の順に利用率は高く、その他(行政事務研修員・非常勤職員等)においては閲覧のみしている方も多い状況だった。

上記から、自分自身が名刺交換をしない場合でも、部 局内の名刺を閲覧するニーズは一定数あることがわ かった。

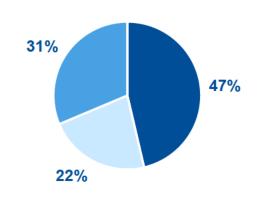
指定職・管理職 65名



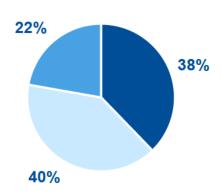


課長補佐 199名

係長・係員 233名



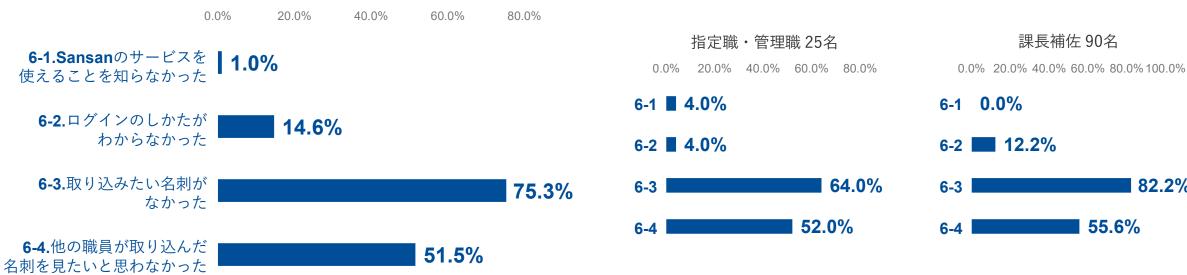
その他 45名



(5.でログインしなかったと回答した方に伺います。)

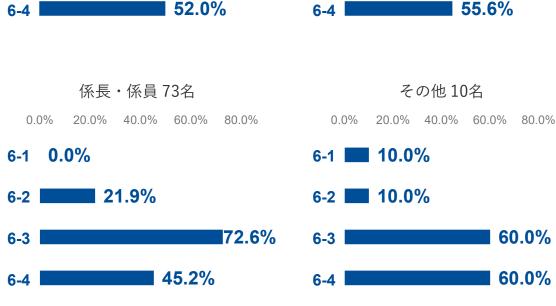
6. なぜログインしなかったのですか? (複数回答可)

全体 198名



ログインをしなかった方のうち29名/14.6% が「Sansanのサー ビスを使えることを知らなかった」を回答しており、今後促進 を進めることで未口グイン/未取り込みの状態を解消できると 考えられる。

尚、6-3と6-4には約24%のギャップがあるが、この24%は他の 職員が取り込んだ名刺を見たいと思った層となる。名刺の価値 は個々人で判断できるものではなく、自身にとって重要ではな い名刺でも、他者にとっては有益な情報が含まれている可能性 があるということを示唆している。

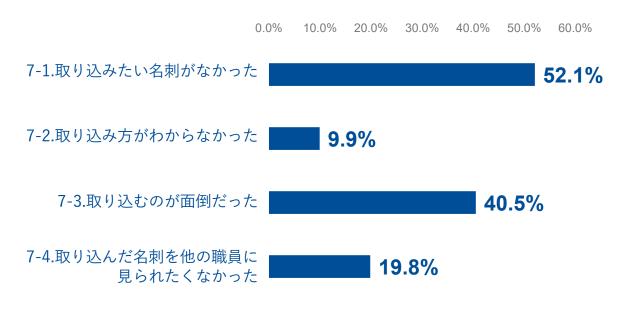


82.2%

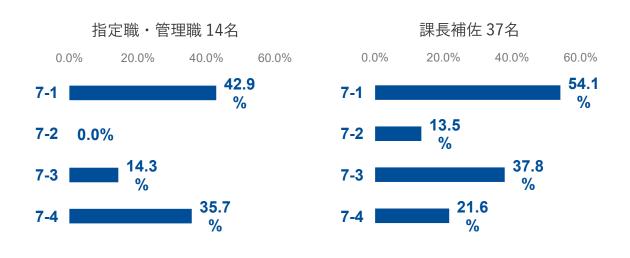
(5.でログインしたが名刺を取り込まなかったと回答した方に伺います。)

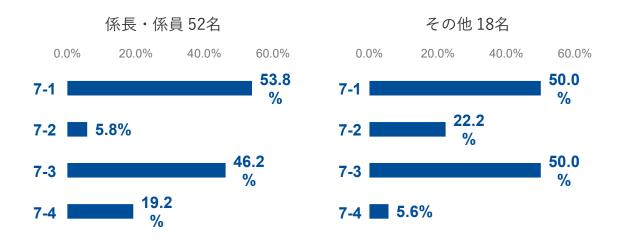
7. なぜ名刺を取り込まなかったのですか? (複数回答可)

全体 121名



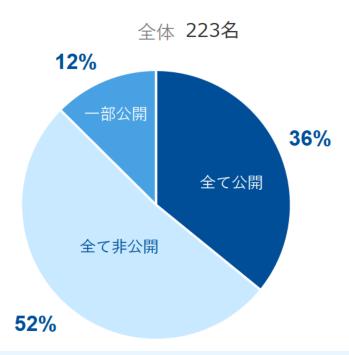
取込をしなかった方のうち49名/40.5%が「取り込むのが面倒だった」、12名/9.9%が「取り込み方がわからなかった」を選択しており、取り込みサービスを引き続き実施することで利用者は増えると考えられる。また、「取り込んだ名刺を他の職員に見られたくなかった」と回答した24名/19.8%については、名刺の非公開方法を知らない可能性があり、改めて再周知することで名刺のスキャンが進むと考えられる。





52%

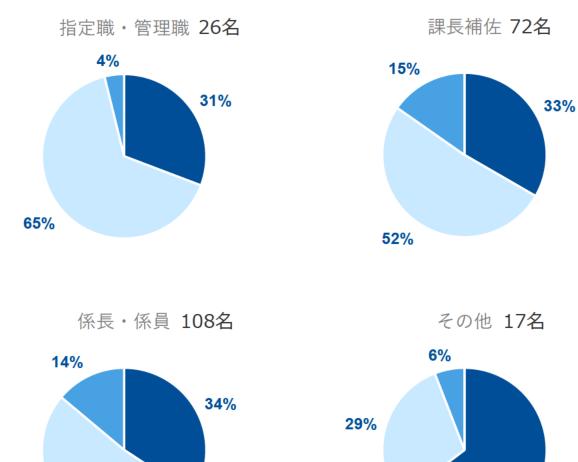
8. どのような設定で取り込みましたか?



全体としては36%の方が「全て公開」の状態でスキャンを実施している。また、約半数が非公開設定でスキャンを実施している。

指定職・管理職>課長補佐>係長・係員>その他(行政事務研修員・非常勤職員等)の順に非公開の比率は高かった。

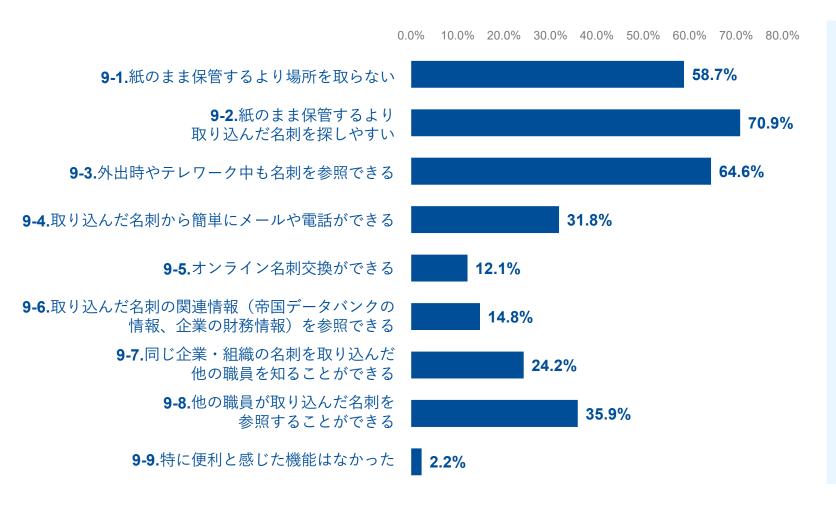
本件についてはフリーコメントでも公開で取り込めるようにしてほしいとの意見が非常に多く、今回のルール改定に伴い利用者増が見込めると想定している。



65%

9. Sansanのどのような機能が便利と感じましたか? (複数回答可)

全体 223名



省スペースや検索性の良さ等、日々の業務における利便性を評価いただいた方も多かったが、9-3.外出時やテレワーク中も名刺を参照できる(144名/65%)、9-5.オンライン名刺交換ができる(27名/12%)のようにテレワークにおける価値を評価していただいたユーザも非常に多かった。

また、9-7同じ企業・組織の名刺を取り込んだ他の職員を知ることができる(54名/24%)、9-8.他の職員が取り込んだ名刺を参照することができる(80名/36%)のように組織として人脈やつながりが共有されることに価値を感じていただいたユーザも多く見受けられた。

便利と感じなかった方は非常に少なく、一度使えば価値が実感いただけるサービスであることがわかった。

9. Sansanのどのような機能が便利と感じましたか? (複数回答可)

指定職・管理職 26名

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%



課長補佐 72名

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%



係長・係員 108名

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%



その他 17名

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%



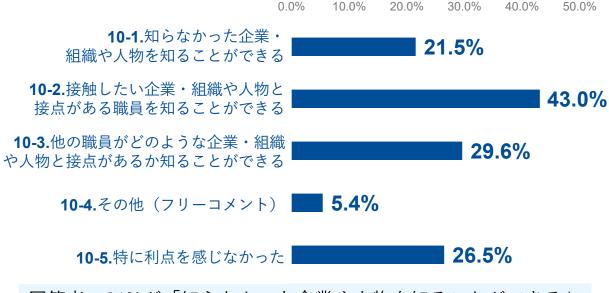
9-7、9-8のような人脈共有に価 値を感じているユーザは係長・ 係員とその他(行政事務研修 員・非常勤職員等)において特 に割合が高く、4割以上が他の職 員が取り込んだ名刺を参照する ことができることに価値を感じ ている。

また、すべての役職で約7割の 方が「紙のまま保管するより取 り込んだ名刺を探しやすい」と 回答しており、デジタル化する ことで業務効率化を図ることが できたことがわかった。

紙でのアナログな管理では実現 することが難しい「省内での人 脈の共有」について一定のユー ザが評価していることは、デジ タルトランスフォーメーション が一歩前に進んだ表れだと考え られる。

10. 他の職員が取り込んだ名刺を参照できる利点は何ですか?(複数回答可)

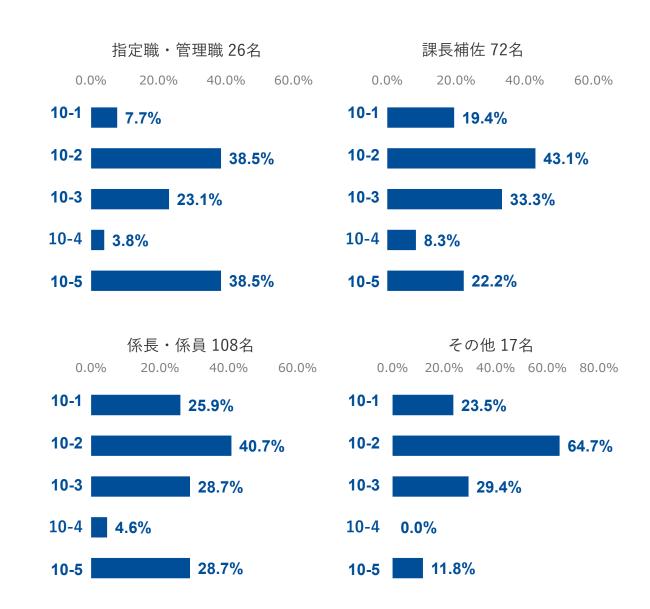
全体 223名



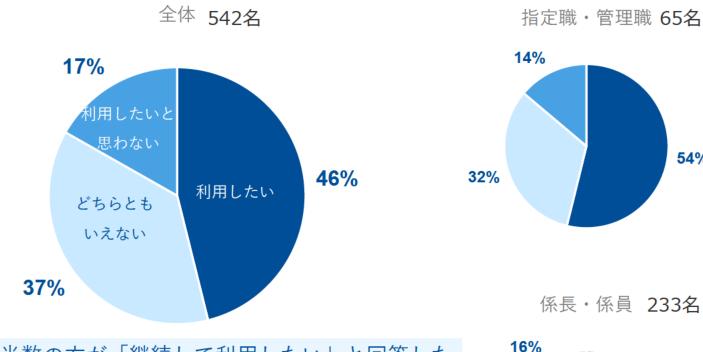
回答者の21%が「知らなかった企業や人物を知ることができる」ことに価値を感じており、全ユーザで換算すると約800人の職員が同様の価値を今後感じることができるようになると考えられる。今後リモートワークがさらに進むと、より一層省内の人脈は見えにくい形になると想定されるため、クラウド上で人脈を共有できるようになることの価値は高まると考えられる。

フリーコメント:

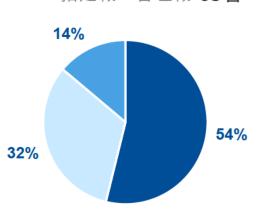
- 外部の方と緊急に連絡を取りたい時に、自分が名刺交換したことが無い場合でも他の職員が交換していれば連絡先がスマホからすぐに割り出せる点。
- 肩書など情報の更新を参照できる点(計5名の方から同様のコメントをいただきました)
- ツテがない企業に対してSansanを見て紹介してもらってアプローチすることが出来た。
- 自分が接触した人が、他の同僚と接触していることを知ることが出来る点。

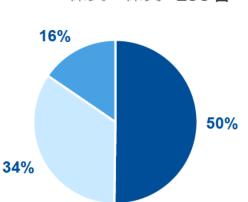


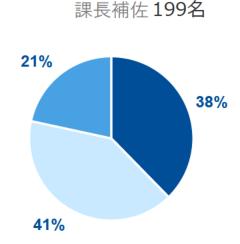
11. 今後、Sansanのような名刺共有サービスを利用したいと思いますか?

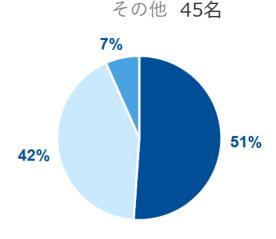


全体では約半数の方が「継続して利用したい」と回答した。 また、どちらとも言えない、を選択した方も、フリーコメ ントにて「今の業務においては名刺交換がないが、異動し たら使用したい」「組織としてはこういったシステムを 使っていくべき」といった意見が非常に多く見受けられた。 また、役職別でみると「指定職・管理職」のうち54%が 「継続して利用したい」と回答しており、役職が上がれば 上がるほど人脈共有の価値を実感いただいていることがわ かる。

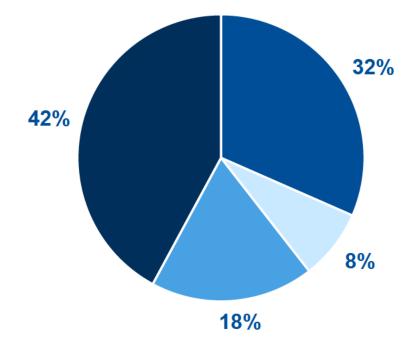








12. Sansanのような名刺共有サービスの利用について御意見があれば記載してください。(152件)



■ポジティブ ■ネガティブ ■ニュートラル ■運用や機能に関する要望

弊社にてコメントを4つの分類に分けさせていただいたところ、42%が運用や機能に関するご要望に該当するものとなっており、より一層活用するためにも閲覧制限の解除等を求める声が非常に多く見受けられました。また、ポジティブなコメントの中には、オンラインミーティングやテレワークが増えたことで、人脈共有に対する期待を感じていただいているユーザも多い状況でした。

12. Sansanのような名刺共有サービスの利用について御意見があれば記載してください。

<ポジティブなご意見>

- ・他の部署の誰と接点があるか知ることができるので、相手方がどのよう な業務をしているか、コネクションを持っているかが見える化できて非常 に便利でした。
- ・名刺やその他のデータベースを組み合わせて、経済産業省が集める補助 金、請負、委託、法に基づく報告者等のありとあらゆる名簿情報をすべて 網羅的に管理できる状態を目指すのがよいのではないか。
- ・オンラインでのミーティングが増え、先方からオンライン上の名刺交換を求められることもあった(特にベンチャー系企業)。このサービスのおかげで先方とのやりとりがスムーズにできた。
- ・もっとみんな活用して、組織全体としての機会損失をなくしていくべき。 ネットワーキング勝負仕事なのに、タコツボにナルのは非効率だし、非生 産的。
- ・企業へのヒアリングの申し込みなど、重複して連絡してしまう場合や逆 にライトパーソンを知らない場合など、こうしたサービスが有用になる場 面は多々あると考えます。
- ・コロナ禍における新しい生活様式に対応すべく、政府においてもテレワークの積極的な実施が求められていると思います。Sansanの活用は、今後、テレワークの実施が必須となっていく中では、必須の機能の一つだと思います。自分自身、まだ本格的に活用できていませんが、今後は、積極的に活用していきたいです。

<ネガティブなご意見>

- ・役所では交換した名刺は基本的にはそのポスト限り、後任に引き継ぐ以外に他人と共有したところで意味がないと思います。これにつぎ込む予算をもっと役立つものに使うべきでしょう。
- ・公務員の場合、名刺共有が必ずしも必要とは思わない。共有によるメリットよりも個人情報を共有する際の確認が面倒などデメリットを感じる。

<ニュートラルなご意見>

- ・専門非常勤職員ですが、外部の方と名刺交換する機会がほとんどありません。
- ・Sansan導入時は外部の事業所との接点があったので、登録しようと思っていたが、8月に人事異動があり外部と接触する機会が激減したことと、コロナ対応で接触することもなくなったので名刺を使うことが無くなったので、今後登録することはほぼないと思われるが、参照することはあるかもしれない。

<運用や機能に関する要望>

- ・課内のみ共有するという設定変更をユーザ開放して頂きたい。全省に公開するかしないかではかなり利便性も悪い。例えば、他課室との関係においても問題がでるのではと想定されるため、結局非公開で運用せざるを得ず、結果名刺共有サービスの利点を上手く活用できない現状となっている。
- ・個人的には、名刺交換した時点で、相手社内で名刺が共有されるのは当然のことのように認識していたこともあり、省内共有に際して明示的に了解を求める運用にどうも不思議な気がしています。
- ・執務室に常に回収キットを置いて頂きたい。
- ・当省のOutlookと連携してほしいです。
- ・業務多忙であるため、利用促進(徹底)のためには、それだけをやるための時間を公式に設けていただいた方がありがたかった。
- ・個人情報保護の観点から取り込みを容易にする設計にしてほしい(相手の了承を毎回取るのはコスト)
- ・IP電話と連携して欲しいです。
- ・共有のため、「(2)「経済産業省では、交換した名刺を省内で共有している」旨を記載した名刺を交換する。」について、省内共通の書きぶりを提示してほしい。
- ・ルールが複雑でわかりにくい、機器が身近にないので使いづらい

(補足)活用状況と継続希望状況の相関

利用状況	利用したい	どちらとも 言えない	利用したいと 思わない	総計
ログインし、名刺を取り込んだ	86.1%	12.6%	1.3%	223
ログインしたが、名刺を取り込まなかった	26.4%	54.5%	19.0%	121
全く利用しなかった	13.1%	54.0%	32.8%	198

利用したが継続希望していない方/利用しなかったが継続 希望の方のコメント

<利用したが継続希望していない方のコメント(3名、1.3%)>

- ・非公開でスキャンをお願いしているが、本当に非公開なのかが自分からはわからない点が不安。当該リストが、対中、 対口等の情報機関に渡った場合のリスクを懸念する。
- ・特に事業者と頻繁な名刺交換をするような担当ではないため、名刺サービスの有効性は実感できてない。
- ・個人で使っている名刺管理ソフトで十分な気がしますが、省としてこういったサービス利用を推奨してくださるのでしたら、**使用方法の説明会はWeb講習などで開催頂きたい**と思います。
- →利用してくださったユーザにおいては、継続希望しない方はわずか1.3%という結果となり、使えば価値を感じていただけるという当初の仮説が実証された状況といえる。

<利用しなかったが継続希望の方のコメント(26名、13.1%)>

出向元でSansanを利用しているため、当省内ではSansanを利用していない。共存できる方法等あるのでしょうか。 自分は業務の関係上あまり他人の名刺を参照したい場面に遭遇しませんでしたが、企業へのヒアリングの申し込みなど、 重複して連絡してしまう場合や逆にライトパーソンを知らない場合など、こうしたサービスが有用になる場面は多々ある と考えます。

まだ利用していませんが、**どこかでまとめてスキャンしたいと思っています。続けていれば必ず利用者は増えるはずですので、継続していただきたいです**。

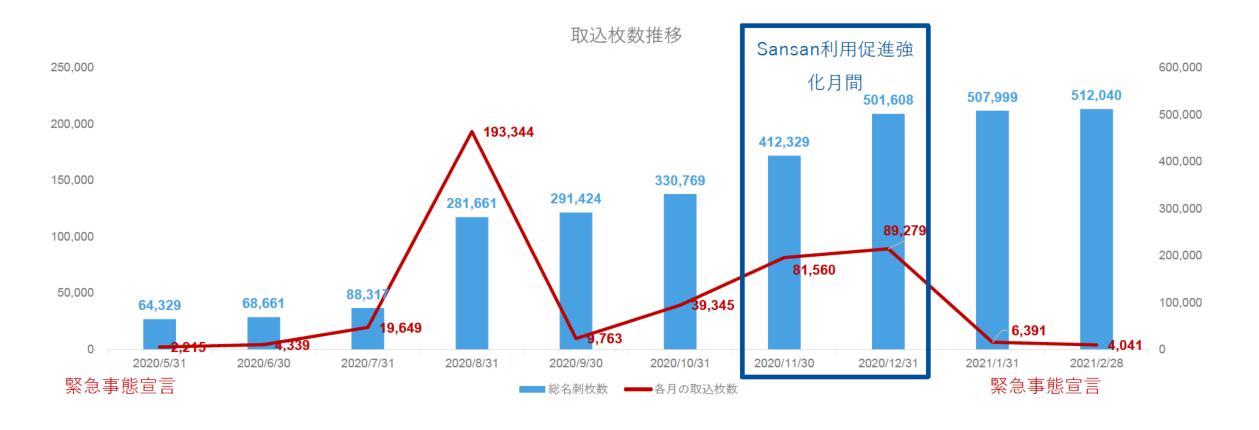
読み込み業務を常時外注出来る様になっていれば良いかと思います。(業務支援室?)

業務多忙であるため、利用促進(徹底)のためには、それだけをやるための時間を公式に設けていただいた方がありがたかった。

利用促進による効果(利用率サマリ)

総名刺枚数と当月の取込枚数推移

- 緊急事態宣言で7割の職員がリモートワークを実施している状況においても、月間4,000枚以上の名刺がスキャンされており、1度利用を開始したユーザにおいては継続的に活用されることが実証された。



部署別利用実績

- 名刺交換枚数の多い5部局においては特に活用促進に注力し、人数が多い部門であるにも関わらず短期間で高い成果が出た。

部署名	所属ユーザ数	各部の名刺の合算枚数	平均枚数	部署別 未ログインユーザ	部署別ログイン済み ユーザ比率	部署別 未取り込みユーザ	部署別取込済 ユーザ比率
本省	19	3,290	173	12	37%	15	21%
大臣官房	428	25,634	60	277	35%	363	15%
調統G	194	6,404	33	102	47%	163	16%
福島G	77	6,142	80	46	40%	52	32%
産政局	166	44,223	266	58	65%	74	55%
地域G	95	12,026	127	25	74%	57	40%
通政局	233	55,583	239	112	52%	150	36%
貿易局	319	33,040	104	154	52%	228	29%
産技局	311	45,976	148	138	56%	206	34%
製造局	339	54,896	162	197	42%	251	26%
商情局	160	47,558	297	73	54%	88	45%
保安G	135	8,890	66	75	44%	102	24%
商サG	248	47,746	193	131	47%	174	30%
電取委	62	10,530	170	23	63%	39	37%
エネ庁	458	50,941	111	258	44%	326	29%
中企庁	396	44,128	111	189	52%	274	31%
特許庁	7	2,125	304	0	100%	0	100%
地方局	43	13,651	317	11	74%	11	74%
経済産業研修所	10	0	0	5	50%	10	0%

同規模導入比較

同規模企業と比較し、導入時期に重要となる指標(登録名刺枚数、取込率)は好調に推移し、活用の土台が早期に構築できた

所が改正来とお供で、特別の中華文である情報(並然自然的次次)、						
	経済産業省 (2021年1月6日緊急事態宣言前の数値)	同規模導入企業A	同規模導入企業B			
登録名刺枚数	507,931枚	239,345枚	504,918枚			
ログイン済ユーザ	48.5%	59.0%	37.1%			
取込済ユーザ	30.9%	27.1%	25.1%			
オンライン名刺 設定率	7.1%	3.0%	3.8%			
月次利用率	22.5%	15.6%	15.7%			

ユーザインタビューからわかる 行政機関としての活用例

一行政機関としての活用例①

令和2年度実証実験にてSansanをご利用いただいた職員様に対して実施したインタビューにてお伺いした活用方法をまとめております。

- 産業技術環境局 S様

- この企業、この人物を紹介してと他局や課室の職員から依頼をもらうことがよくあり、面識のなかった職員と繋がりがもてるようになり垣根がなくなったと感じる
- 異動時の引継ぎに時間を要していたがSansanで人脈を引き継ぐことができた

- 通商政策局 M様

- 上司から○○社と接点を持ちたいと依頼があった際に、省内の人脈を探すのに役立っている
- 他社の名刺管理アプリからの移管もスムーズで画面構成も見やすく使い勝手が良い
- 新聞記事のニュースも受け取られるようになるとSansanに毎日ログインするきっかけになる

- 資源エネルギー庁 F様

- 数年前にSansanを利用していて利便性は十分に理解しているが、継続してSansanを使える状態にないため利用を躊躇している。継続して使える 環境を整えてほしい
- 異動時の引継ぎに有効だと感じている。紙管理だと引継ぎ漏れなどもあったがSansanを見れば前任の関係者がわかるため便利だった。

保安グループ O様

- 新しい技術の活用状況のヒアリングで民間企業と接することが多い。これまでは、電源別業界団体へ問い合わせ民間企業の窓口を紹介してもらっていたが、Sansanを使うことで部署内の名刺から直接アポイントメントを取れるようになった。メインの団体の連絡先は課内の誰かは繋がりがあるはずなので、検索も引継ぎにも便利と感じている。

一行政機関としての活用例②

- 経済産業政策局 A様

- Sansanはスマホアプリを利用していた。PCで利用できることを知らなかったのでより利便性があがる。
- ウェビナーを開催しているのでオンライン名刺のQRコードを積極的に活用していきたい

- 製造産業局 S様

- セミナーリストをExcel管理していたがSansanで管理できるようになり利便性があがった
- 情報配信もBCC配信をしていたため、今後はSansanのメール配信も活用していきたい

- 通商政策局 K様

- 従来より名刺整理や探すのにすごく時間をとられていたがSansanであればスキャンするだけで、いつでもすぐ検索できるようになり便利になったと実感している
- 外国の名刺もスキャンできる点も評価できる
- フロアに1台しかスキャナがないため、すぐスキャンできるよう増設してほしい

- 経済産業政策局 I様

- 調査事業などを実施する際、これまではいきなりホームページに記載のある番号へ連絡していたが、Sansanで省内のつながりがわかるようになり業務も進めやすくなった
- 自分自身が名刺交換した企業、人物に関して企業ニュースが配信されてくるのが、情報取集の効率化につながり便利だと感じている

「人脈の共有・見える化」が
 行政機関にもたらす価値

■デジタル化による生産性の向上

職場に縛られない働き方を実現

外出先でも顧客情報が活用できるようになり、 「出社を前提とし ない働き方」を新しい働き方を実現

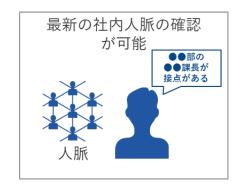






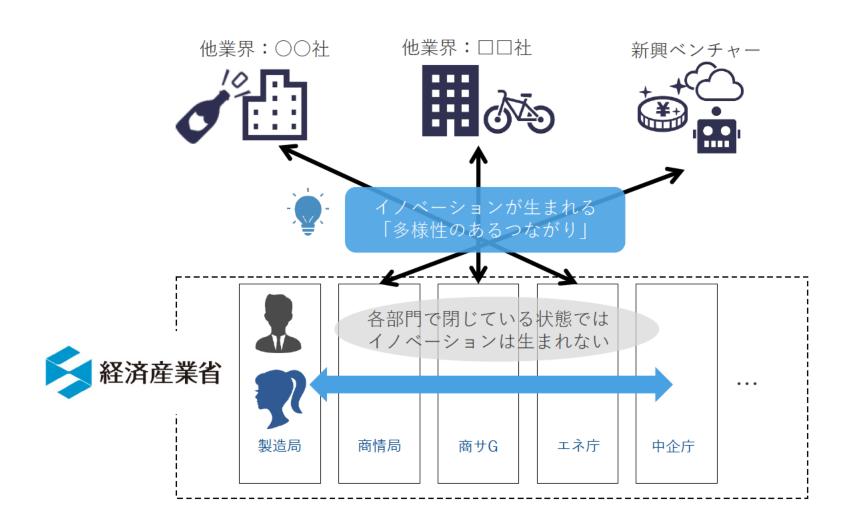
リモートワークでも会社にいる時よりも 生産性が高い環境を提供します





■ 人脈共有・活用によるイノベーションの創出

多様性のあるつながりからイノベーションを生みやすい土壌を構築



ITガバナンスの強化

個人情報である名刺をセキュアに管理し漏洩リスクを撲滅

○名刺はどこにあるか

個人管理 デスク バック

組織管理 ロッカー 書庫

○名刺に関わるリスク



JIPDEC(日本情報経済社会推進協会:プライバシーマーク制度)において は名刺紛失についても事故報告の対象となります。 また、紛失や流出でお 客様への謝罪、報告の事例は多々あり、風評被害なども含めリスクが高まっ ています。

Sansanを利用することで、名刺をクラウド上で一括管理・活用できます。 会社として高度なセキュリティ水準で情報漏洩のリスクを最小限に抑え、安全な情報活用が可能です。

Sansanにおけるセキュリティ機能



△ ダウンロード制限

アカウント毎にダウンロード制限をかけるこ とが可能です。ダウンロード権限は3段階の 設定が可能であり、組織のニーズによって、 柔軟な設定が可能です。



▲ アクセスコントロール A IPアドレス制限

アクセスコントロール(閲覧権限)をこまか く設定することが可能です。名刺の項目単位 から組織まで、幅広く設置することでセキュ リティを保ちながら実効性のある運用が可能 です。



IPアドレス (グローバルIPアドレス) による アクセス制限が可能となります。

不許可のアドレスからログインを試みると担 当者にその旨メールにて通知されます。

■名刺管理サービス導入成功のためのポイント

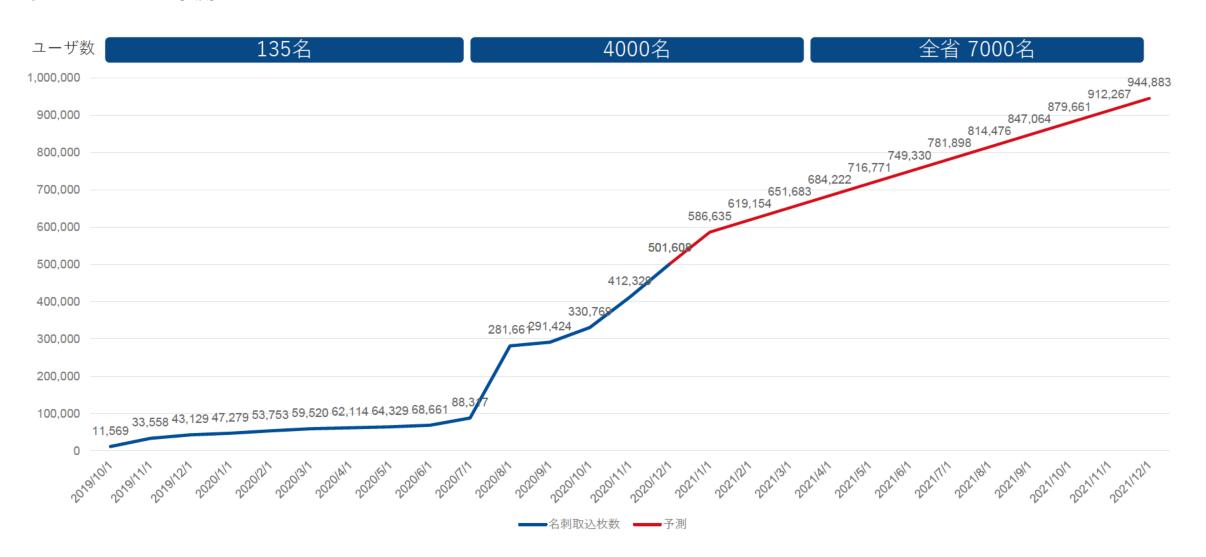
経済産業省並びに他官公庁が今後同様の事業を実施する場合、以下4点を抑えることで、人脈共有・見える化を成功させることができます。

- 行政機関において利用促進されるための運用支援があること
 - 運用支援=ノウハウ・ツール・実績
 - 数千名模での運用を想定した運用設計ができるか
- 他サービスと連携しても職員負担がなく業務効率につながること
 - ユーザ体験がスムーズであること
 - 多忙な職員を利用を後押しするための支援(名刺取り込み代行やユーザ機能説明会、動画コンテンツ等)が充実していること
 - 各種サービスとのコラボレーションが対応できること
- 職員に利活用ある有益な情報が配信されること
 - 連絡とりたいときに連絡できる状態(最新状態)になっていること
 - 有益な情報を受け取ることで利用を促進できること
 - 多忙な職員が時間をかけずに企業、人物の情報を受け取れ業務効率につなげられること

参考:継続利用することで期待される効果

● 令和3年度 取込み枚数推移予測

令和2年7月から50万枚の名刺が取り込まれているため、今後地方支分部局のユーザへ拡大することで100万枚以上の名刺が取り込まれると予測しております



▶ 令和3年度 月次利用率推移予測

ユーザ拡大時に利用率は一定下がるものの、定着後の利用率の離脱が少ないため今後も上昇していくと予測しております



考察

考察-1

- 蓄積される名刺が増加することにより政策連携に関するアウトプットは向上する
 - 令和元年の部分導入と比較し、今年度は経済産業省本省の全職員に拡大したことで、他部署の人脈を民間企業との政策に活かすユーザも徐々に増えてきたことがアンケートやユーザインタビューからわかった。特に 2~3年単位での異動が発生する行政機関において、異動した職員の持つ人脈を後任の職員が活用できるようになることは、生産性の向上や質の高い政策立案の機会創出観点で有益と言える。

- 名刺管理ツールの活用により、各職員の業務効率化を実現することができる
 - 名刺をスキャンするだけで下記のような機能を活用することができるため、各職員の業務効率化観点でも名 刺管理サービスは有効と言えます。
 - > 人事異動ニュース:共同通信社やダイヤモンド社の情報、名刺管理アプリEightの情報等を基にニュースを配信
 - > 財務・業績情報:四季報や決算情報を基に、業種別の構成比率や売り上げの推移等をレポート形式で出力
 - > 業界検索:政策実施の際に接点を持ちたい業界名や企業規模で名刺を抽出することが可能
 - ▶ スマートフォンアプリ:移動中に人物の経歴やプロフィールを確認することが可能

考察-2

- 短期間で効率的に省内人脈を活用するための仕組みを構築するにはユーザへの手厚いサポートが必要
 - 前述の通り、導入から半年の時点で同規模他社と比べても利用率が高い状態を作ることが出来たが、民間企業のユーザと比べて行政機関の職員は多忙であることが見て取れるため、仕組みを構築する際にはユーザへの手厚いサポートが必須と言える。スキャンの代行やストレスなく利用できるUXの設計等でなるべくユーザの作業は削減し、使い始めれば非常に便利で有益なシステムであることを体感させるのが重要。尚、一度使い始めたユーザはその後離脱する割合が極めて低いため、はじめの一歩のハードルを下げることが導入成功のカギと言える。